

【本】

・自由論-J.S.ミル

「自由に対する干渉を限界づける原理を提示した.自由について考える際の最重要文献.」
政治権力者による支配からの自由についての著書.他者危害の原則,愚行権という「他人に迷惑をかけない限り,国家により個人の行動は制限されない.」という,現代の法律の基礎となっている部分について,その元ネタとも言える論が唱えられている.

・道徳感情論-アダム・スミス

『国富論』では,利己心を自由放任することで「見えざる手」により,市場の原理が働くと説いた.ただし,この利己心をそのまま自由放任すべきではない.道徳感情を自分の中に形成し,さらにそれに従わなければならない.この「利己心のあるべき姿」を説いたのが『道徳感情論』である. 以上を書いた内容は,自分が一度読んだ上で,ネット上の要約や解説,読後感想を参考に理解しなおした内容である. 正直,一度読んだだけでは深く理解できなかったのでもう一度読みたい.

・雇用,利子および貨幣の一般理論-ケインズ

まだ岩波の上巻しか読めていない.「資本主義社会では,最終的に革命が起きるというマルクスの主張を覆した.」「ケインズの理論が世界に知られてから大きな大恐慌に到りにくくなった.」という功績があるらしい. 自分はまだまだあまり理解できていない.

・贈与論-マルセル・モース

「贈与を受け取ると,それ以上のものを返さなければならない.そうしなければメンツが潰れ,自分の共同体が破滅する.」など,原始的な共同体に関する分析などをもとに贈与を研究した本.一見非合理的な贈与がもたらす富についてなどが書かれている. ただし,贈与を闇雲にすればいいわけではないらしい. もう一度この本を読んで,実際の自分の生活に反映してみたいと強く思わされた.

・君主論-マキャヴェッリ

贈与論とは対照的な,人生における立ち回りが描かれている.贈与論と併せてお勧めしたい.

・退屈論-小谷野敦

現代の人生において人間がずっと付き合っていかなければならない「退屈」について論じ

た本. 最終的には人間が退屈に慣れるしかないらしい...

・プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神-マックス・ウェーバー
プロテスタントの勤勉性が資本主義を生んだ.資本主義の原点.

・恐慌論-宇野弘蔵
コロナによりこれから訪れるであろう「コロナ大恐慌」.タイムリーな名著を選んでみた.
マルクスの「資本主義の弊害である過剰供給と過小消費により恐慌がスパイラル的に起こり,資本主義社会は終焉を迎える」という主張に焦点をあてて分析.

・資本論-カール・マルクス
言わずと知れた古典的名著.大学入学以降,いくつかの資本論入門書・解説書を読んできたので,大まかな内容は把握しているが,資本論それ自体はなかなか難解であった.夏休みに第一巻を詳細に読み込みたい.

・共産党宣言-カール・マルクス
万国の労働者を奮い立たせるような過激な言葉遣いを用いて,資本論にも通ずる内容を比較的端的に述べている.特に第4章が過激で,声に出して読みたいと思った.

【音楽】

・ Have a Spacesuit Will Travel- The Greg Foat Group
ジャケットにある景観をそのままイメージさせるような曲. 火星を探索する映画の着陸シーンに挿入歌として流れてきそう.

・ Day What a Day-ファビオ・ノービレ
パーカッションの音やリズムが心地良い.音の強弱も好き.これが生演奏で聴けるパーに行きたい.

・ Lady Day and John Coltrane-ギル・スコット・ヘロン
歌い方が気持ちいい.自分のやっているバンドはボーカル自身が気持ちよく慣れるように作曲しているので参考になる.

・ Confusion-Ivan “boogaloo” Jones
度々挿入されるホイッスルが印象的. 私は最近,さまざまな音をサンプリングして使用したインスト楽曲などを聴いているので,こういった変わった音がジャズに使用されているのに興味を持った.

・ Oh Happy Day-エドウィン・ホーキンス(演奏：クインシー・ジョーンズ)

名曲感・幸福感が感じられる。音数の少ないイントロは、自分が作曲する上でも参考になる。自分が作曲する際、コード進行からスタートするのだが、それをベースに肉付けしたのち、どれだけうまく音を減らせるかが重要なところになってくる。

・ A Handful of Soul-マリオ・ボンディ

自分がイメージする王道のジャズという感じがした。落ち着いた大人の歌い方と艶やかかつ貫禄のある演奏。シンプルに聴こえるが、積み上げてきた人生の深みを感じる。

・ Wave-アントニオ・カルロス・ジョビン

昔から聴いていた曲。洗練されたカフェで流れていそう。朝のイメージ。海岸に近い家での長閑な暮らし。

・ My Foolish Heart-ビル・エヴァンス・トリオ

切ない恋のメロディ。歌詞はないがそれが伝わってくる不思議な感覚。

・ Open Fire-ジョニー・マーティス

グッドメロディ。一つだけ勧めるとしたらこの曲。特にイントロのギターの鳴りが至高。

・ Satin Doll-デューク・エリントン & ビリーストレイホーン

この曲はもともと、カバーされたものを聴いていたのだが、今回調べて作曲者がわかった。オリジナルの演奏の方がジャズらしいリズムがあって好き。

【芸術】

・ 智・感・情・A-梅津庸一

全身の自画像。ヌードであることとは関係なく、変態的な色彩と構図を感じる。不思議と現代的な雰囲気を持っている。古典的な男性のヌード画や像はゴツゴツとした力強さを感じさせるものが多いが、この作品は爽やかな印象を持っている。日本の近代絵画（裸体画）の出発点とされる黒田清輝の作品「智・感・情」（1899年）のオマージュ作品。

・ 波を止めている夢-潘逸舟

写真の彩度を下げることで、波を静止させていることを表現している。こういった表現は、漫画『ジョジョの奇妙な冒険』やドラマ『SPEC』にも登場し、主にバトルシーンで使用されるが、この作品は物寂しさが感じられる。

・ スローモーション-坂本夏子

児童文学の中の世界のような、奇妙で淡い世界。

・象-サルバドール・ダリ

インターネットや写真がこの世に存在しなかったら,遠い国の景色をこんな風に想像していたかもしれない.

・ 作品名不明-Yuri Hasegawa

一点物のぬいぐるみを作る作風.表現方法をひとつに絞って淡々と作り出していく制作スタイルが魅力的だと思った.

・ Adventure of Everyday Life-西野達

直感的に好みの作品.本来そこに存在しないはずだが,存在させようとするれば存在させられるものを,実際に存在させてやる試み.このことは自分の行動にも応用できて,誰もやろうとしないが,やろうと思えばできることは多い.しかし,誰もやろうとしないことの中には,合理性がなく,選択されなかったものも多いので注意が必要. この作品の意味では合理性は必要ないが,誰でも思いつくのに誰もやらないことは避けた方がいいだろう.

・-還る-衣川明子

全ての線がぼやけているのに,はっきりとした存在感がある.

・ How are you feeling today(2014)-平山昌尚(HIMAA)

最もシンプルな図形で物事を表そうとする作品群.最もシンプルはずなのに,彼の描く図形は強烈なアイデンティティを持っている.

・ 一日一花 A FLOWER A DAY(2019)- 高田唯

自分が作るグラフィックアートは高田唯に最も影響を受けている.艶やかな立体図形は,パソコンが普及し始めた時代のデジタルグラフィックを思わせるが,この作品はもっと現代的な雰囲気を出している.

・ 花-アンディ・ウォーホル

Literature というバンドのアルバムのジャケットに勝手に起用されている.特別変わった絵には見えないが,唯一無二的な存在感を持つ.